

富士見市防災環境カルテ
水谷第7町会 位置番号 39

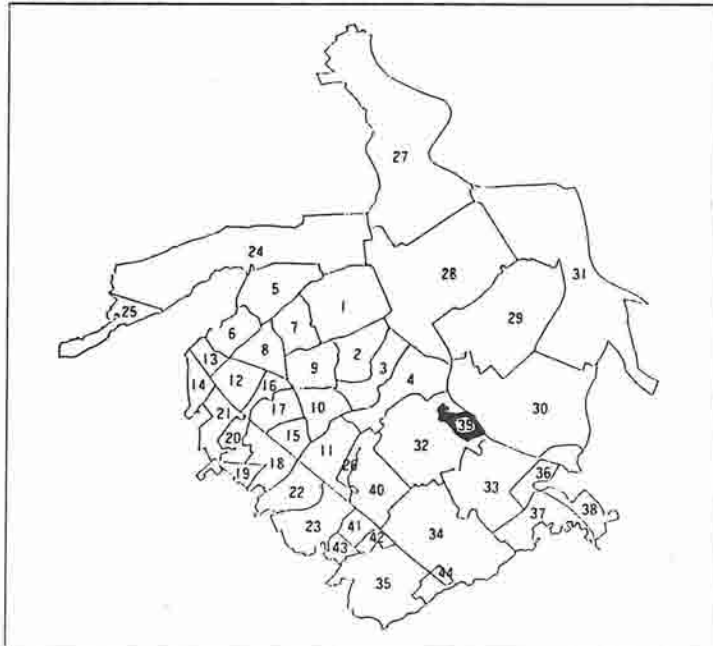
・概況

水谷第7町会は、富士見市の中央部に位置し、北側は富士見江川、北東側は新河岸川に面し、水田（氾濫平野）が盛土されて宅地化された住宅地と、北西側の水谷第1町会に接する浸食斜面（低位段丘）で形成されている。昭和34年以前は家屋棟数も少なく（27棟）、稲作を主とした農村地帯であった。昭和35年以降、水田は盛土されて宅地化が進み住宅が密集化している。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨による富士見江川の溢水、また、住宅地内の下水路の溢水のため家屋に浸水する内水災害が予想される。

地震災害は、町会の全木造建物の約15%の損壊が予想され、また、出火の危険性、延焼の危険性が高いことが予想される。特に、ひばり住宅は富士見江川と水田に囲まれ、発災時に孤立する恐れがあるため迅速な避難活動が行えるよう防災組織の育成が望まれる。

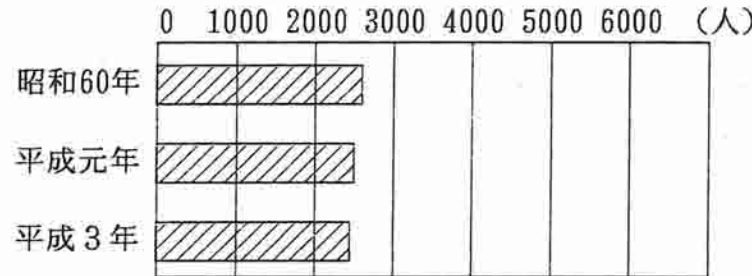
・位置図



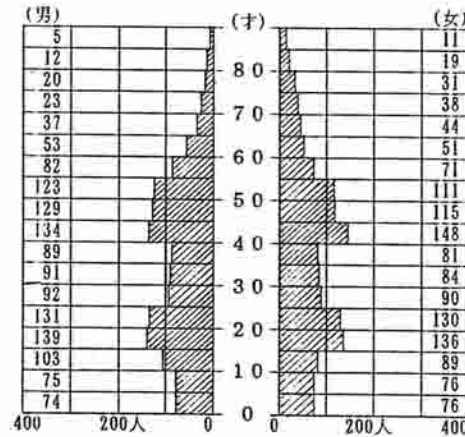
1. 基礎指標

・面積	0.085km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,192人
女	1,175人
計	2,367人
・人口密度	27,847.0人/km ²
・寝たきり老人数	3人
・ひとり暮らし老人数	11人
・世帯数	716世帯

・人口推移

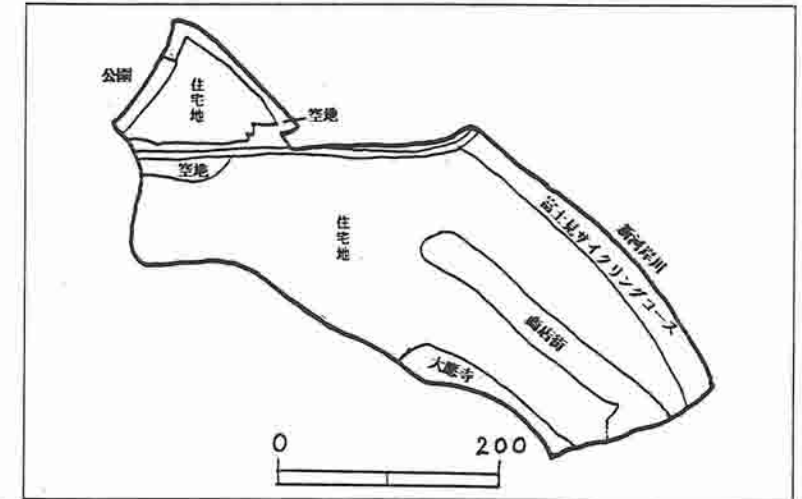


・年齢別人口(平成3年)

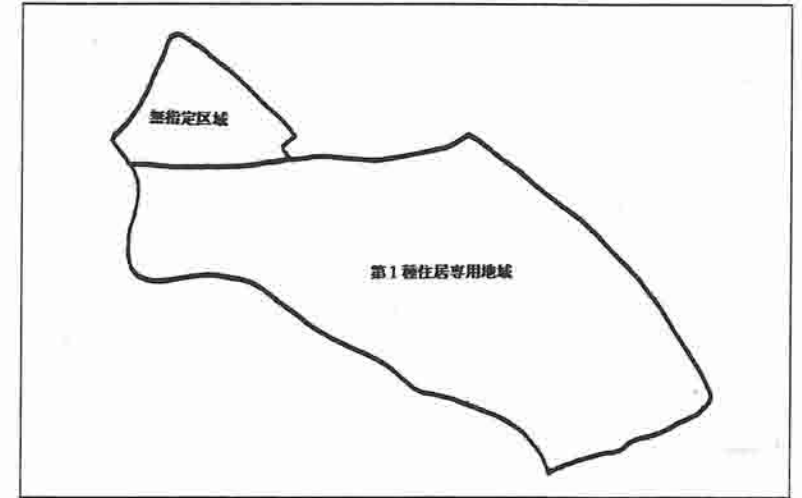


・商住工混在率住居系	90.9%
店舗系	5.6%
工業系	3.5%

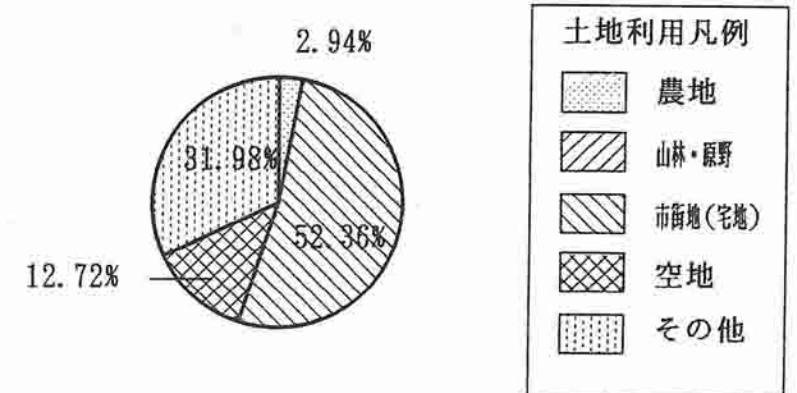
・町会現況図



・用途地域図



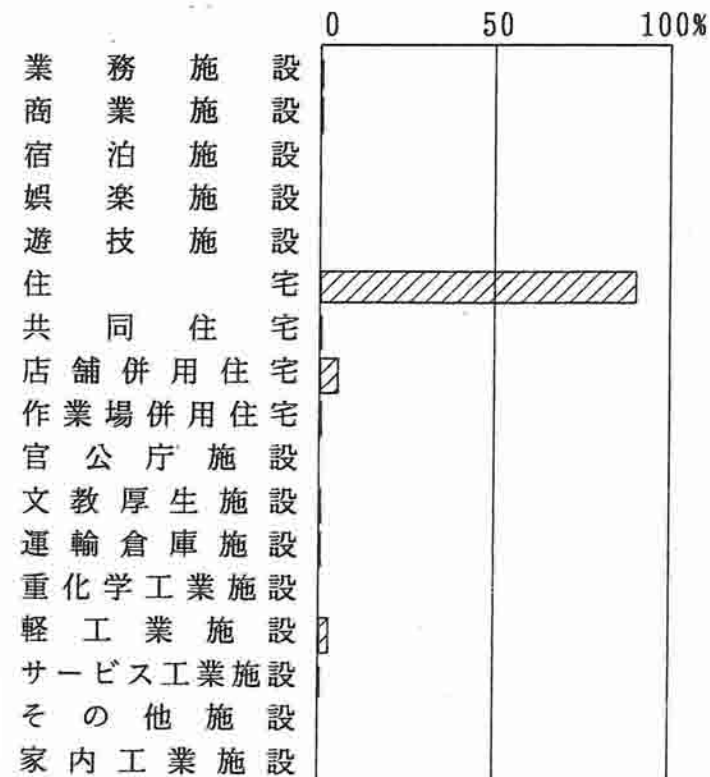
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,129棟	
木造建物	1,098棟	
非木造建物	31棟	
・建物面積	31,037.03㎡	
木造建物	26,453.95㎡	
非木造建物	4,583.08㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	90.5%	
・木造率	97.3% (1,098棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	27棟	
・同上率	2.5%	
・建物階層別現況 (木造建物)		
1階	132棟	12.0%
2階以上	966棟	88.0%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	40本	470.6本/㎏
・幹線道路率	1本	11.8本/㎏
・公共空地面積	0㎡	
・公共空地率	0%	
・1人あたり公共空地	0㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	11本
・1消火栓あたり世帯数	65.1世帯/本
・消防水利貯水施設数	1 (0) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	2か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(瓠18号)	60棟	40棟	か所
平成元年 8月(大雨)	40棟	5棟	か所
” 3年 9月(瓠18号)	491棟	4棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医 院	0か所	
休日診療所	0か所	
警 察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

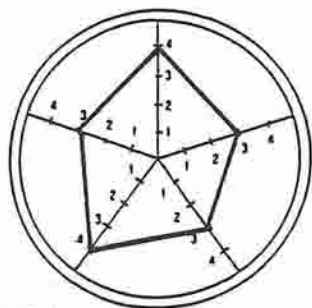
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	3ランク
・木造建物出火危険度	3ランク
・木造建物延焼危険度	4ランク

地盤	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	3ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、町会全体が水田地帯〔10m以上の沖積層（氾濫平野）〕のため軟弱である。地震は、震度6（+）（烈震の強い方）が予想される。地盤条件は悪い。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川の溢水。水田地帯の灌漑用水路からの溢水。住宅地内の下水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	低い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため、住宅地の木造建物の倒壊の危険性が高いと予想されるので注意を要する。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数や消防水利貯水施設数が少ない。
4. 出火危険	出火の危険性がやや高いと予想される。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%以下と見込まれるため、延焼の危険性が高いと予想される。	5. 避難収容力	避難所は、町会内の大心寺と、隣接する本郷中学校（水谷第1町会）がある。
6. その他の災害	地盤条件が悪いので液状化の危険性がやや高いと予想される。		

11. 解決の方向性

富士見江川、水田の灌漑用水路及び住宅地の下水路の溢水は、台風に伴う大雨による新河岸川への排水流量（排水能力）に問題がある。したがって、新河岸川流域総合治水対策事業（県）を踏まえ、富士見江川左岸の遊水池・排水機場の設置・住宅地内の雨水の流出抑制施設など抜本的な処置が望ましい。とくにひばり住宅は富士見江川にかかる2つの橋はともに冠水の恐れがあり、住宅のかさあげ促進対策とともに橋の安全化をはかる必要がある。

避難可能な道路は、住宅地、商店街の生活道路を使用するため、道路沿いにあるブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒のため、避難道路が狭隘化する危険性がある。したがって、これら倒壊物、転倒物による避難道路の狭隘化を防ぐ予防対策指導が望まれる。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例

●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例

	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水 防 施 設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休 日 診 療 所
	指 定 避 難 所
	公 園
	河 川 ・ 水 面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

